



### 合璧での十年間

十年前、偶然が台湾の合璧が上海に工場を新設するというのを聞き、わたしはとても喜びました。そのあと台北で董事長に会ったのですが、このときのことは深く心に残っています。董事長は自らわたしを連れてあちこち回りました。このとき思ったことは「こんな会社で働きたい」ということです。その感じは何ともいえない特別なものでした。このあと、幸運にもわたしは台北で初めて董事長の面接を受けて上海合璧最初の従業員となりました。台北での実習の初日、わたしは董事長の運転する車で事務所に向かっていた。「董事長の運転する車に乗れるなんて」とわたしはとても喜んでいました。しかし、その車は会社へ行く途中で故障しまったのです。わたしは董事長と車を路肩まで押しました。董事長は以前、親戚に危ないから新車に買い換えるよういわれたそうですが、「この車は速く走れないから安全なんだ」と答えたそうです。このように董事長の生活はとても簡素です。



董事長と楊如禔經理が記念撮影

董事長はずっと「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」を提唱していますが、そんな董事長の思いやりを、上海ではじめて受けたのは同僚の張炳香さんです。上海に来た董事長は激やせした彼女を見て、一度医者に見てもらったほうがいいと言いました。検査の結果、彼女の肺に異常が見つかりました。董事長は彼女に治るまでは半日の仕事でいいから、病気をしっかり治すようにいい、医療費も負担しました。

このあとで黄保仿さんのお父さんとお兄さん、李広東さん、金茂武さんの娘さん、徐菊さんのお父さん、勝燕さんのお父さん、孫校長先生の息子さん、最近では袁英さんが援助を受けています。そしてわたしの主人もそんな中の一入です。その日会社では年度経営会議が行われていましたが、主人は体調不良で病院へ行きました。診察結果はかなり危ない状況とのこと。わたしはどうしたらよいのかわからなくなりました。恐怖に苛まれていると、董事長が病院へ見舞いに来てくれました。わたしにはこのときの董事長の姿が自分の父親の姿に重なりました。そして、感動のあまり泣き出したのです。董事長は医者にいました。「費用のことはかまわないから、全力でお願いします」。これ聞いてわたしは安心しました。幸いにも主人の病気が大したことなく、自宅療養で済みました。しかし、この期間も董事長は毎日お見舞いの電話をくれました。上海では薬代はとて高いです。わたしのようサラリーマンに長期の医療費を負担するのは困難ですが、会社はこれを負担してくれました。わたしは申し訳ないと思いつつながら、有り難くそれを受けました。このとき、思ったのです。どうしたら董事長のこの恩に報いることができるだろう。わたしのできることは何か。それは会社のために一生懸命働くことしかありませんでした。

去年の7月初め、翌年から外資系企業はハイテク技術企業の申請ができなくなると知り、そこで副総経理とともに最後のチャンスのために準備をはじめたのです。審査員が工場視察に来たとき、わたしは彼らに毎期の「合璧流」と会社紹介のDVDを見せたあとで工場を案内しました。視察が終了したとき、彼らはいました。「こんな素晴らしい企業は見たことがない。申請が通るとして工場を早く立ち上げたい。申請が許可されると、会社は毎年15%の法人税を支払うだけで済むのです。天は努力する人を見放しませんでした。その後審査は無事通過し、会社はハイテク技術企業として正式に認められたのです。この十年で工場は1028㎡から21766㎡に、従業員は4人から約800人になりました。こんなに順調に発展を遂げたのは董事長の「企業文化を根付かせて、経営の特色を創造する」という合璧の精神と切り離して考えることはできません。そして「合璧流」が発行されてから、それはさらに確固たるものとなりました。「合璧流」は合璧の従業員はもちろん、仕入先、政府関係者からわたしの高校時代の先生や友達も読んでいます。このほか、董事長は従業員の住宅問題にも気を配っています。わたしは董事長の指示で近辺の地価を調べました。将来の従業員の住宅のために会社が買うことを計画しているからです。また、最近では「医療健康ケア」チームも設立しました。

わたしはここまで従業員のことを考えている経営者は聞いたことがありません。この十年、董事長からいろいろのことを教わりました。とても感謝しています。そしてこれからも董事長について頑張っていきたいと思っています。

上海合璧特別助理 楊如禔

### 我が心の董事長

彼は知恵者。尊敬すべき人物。身をもって模範を示し、博学多才。思惟深く、その知識多方面にわたる。技術、音楽、生活など。彼は威厳に満ち、稀に見る感懐あふれる人物。そして電話の相手に恥ずかしさから注目をかき除く指導者。彼はユーモアや機知に富む。部下の指導、商談や会食の席では巧みな話術で人の心を集める。彼は学ぶことをやめない。52歳で日本語の勉強をはじめ、同時に英語とスペイン語、それにチェロも学ぶ。これに比べて若い者は忙しくて学ぶ時間がないという。これは「罪」ともいえる。彼は思惟深く、言語ロジックにとても強い。電話を通しての指導でも、直接会っての会話でも、講演でも、才能を遺憾なく発揮する。同じ話題も異なる表現で伝える。彼は優しい年長者。子供の手を引き工場を巡回する姿には感嘆する。この瞬間、彼は一人の優しいお爺さんだ。

彼はいつも感謝する。人を熟知している。彼が金銭をすべて自分のポケットに入れても、自分の一族のために使っても、文句をいう人はいない。しかし、彼は大金を人助けに使う。慈善事業に寄付する。2007年もっとも感心したこと、それは経費で優秀作業員の両親を上海旅行と工場見学に招待したこと。多くの従業員は故郷を遠く離れて上海に来ている。心配する両親にとって百聞は一見に如かず。自分の目で会社の様子を見れば子供のことも安心。上海旅行もこのような機会がなければ一生実現しないかもしれない。

彼は感性の鋭い人。社歌、緑化、音楽、読書、旅行、コミュニケーションにおいて芸術的な一面を備える。言語においても然り。代表的な言葉は「あなたといっしょにいるのが好き。わたしは皆が家族」。これは上海工場に来たとき、彼が朝礼で必ずいう言葉。中国人は自分の感情をあまり露にしない。会社の最高指導者が大きな声でこういったとき、特に一般従業員は疑いもなく会社の求心力を深く感じる。

彼は禅に近い人物。禅は無形の物、一種の境界。わたしの認識が少ないため確に表現できないが、彼の言動、思想、追跡力によって人を率いられ、それは禅に近づくことになる。

上海合璧電子電器有限公司  
中国201-805上海市嘉定区安亭鎮安樂路318号  
TEL:+86-21-5960-5468



上海合璧 生産管理購買課課長 何曉敏

「わたしの家族は本当に素晴らしいです。美しく健康で、兄弟は仲良く、両親は優しく……」。この聞き慣れた言葉を耳にするたび、わたしの心は限りない喜びにあふれます。なぜなら、わたしの勤める合璧会社はそんな温かい家族だからです。

たとえば会社のピアノクラブ。董事長は自分の孫にピアノを買ったので、わたしたちにも買ってくださるというのです。董事長にとってわたしたちは孫も同然というわけです。そして、ある日朝礼区に一台の真新しいピアノが登場し、会社のピアノクラブが設立しました。このときはみんなとても感動しました。ピアノクラブの先生は董事長の息子さんの奥さんの王さんです（わたしたちは親しみを込めて「王姐」と呼んでいます）。そして活動時間は毎週日曜日の午前9時から11時。ピアノクラブの設立は、わたしたちにとって会社が与えてくれた、とても貴重なピアノを習う機会です。しかし、王姐にとっては、自分の休日を使ってピアノを教える必要はありません。これはみんなといっしょにやろうという気持ちにはできないことです。ここにも董事長のいう「同心、同歩、同調（同じ心と同じリズムでともに歩む）」の気持ちは見られます。これは簡単なことではありません。



笑顔の劉佳琴さん

とても暑いある日のこと。早くから来ていた王姐が後から遅れてくる学生のわたしたちに笑顔で「おはよう」とあいさつしました。何だか申し遅かったです。みんなそろったあとで練習がはじまりました。王姐は曲の解説や弾き方を教えてくれました。それに対して質問しようとしたとき、わたしは彼女の頬を伝う大粒の汗を見ました。わたしは驚きました。みんな暑さにいらいらしていたのに、王姐は我慢強く、みんなが理解するまで指導していたのです。これは今後決して忘れないでしよう。

会社の方針に「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」というのがあります。が、これは口先だけのものではありません。わたしは身をもって実感したからです。その週末、わたしは風邪を引いてピアノクラブに行けませんでした。すると翌日、王姐がわたしの額に手を当てて「熱は下がったみたいね。でも、寮に戻って休んだら？」と気遣ってくれました。わたしは「大丈夫です。食欲はないけれど、午後病院へ行って注射を打ってもらったよくなると思います」と答えました。このあと午後3時、再び王姐がやって来ていました。「招待所に緑豆のおかゆを作っておいたわ。何も食べられないっていったら。病院から帰ったら電話して。王姐は午前中お忙しがいったことを忘れずに覚えていてくれたのです。そして緑豆のおかゆまで作ってくれたのです。とても感動しました。このときの気持ちはどんなことばでも表せません。わたしは何度も「有難うございます」と言っていました。

午後、病院へ行きました。王姐はわたしに病院にいるときも電話をくれました。そして会社に戻ったときもう一度電話をくれました。そして「待って、すぐ行くから」というと、笑顔でわたしの前に現れました。「どう？少しはよくなった？緑豆のおかゆがあるわ。病気のとき何も食べないのはよくないからね」といって招待所へ連れて行ってくれました。招待所の入口で、わたしは忙しく動く王姐の後姿を見ました。彼女は食器を持ち、それにおかゆを入れて、最後に冷蔵庫から何かを取り出して……。そして緑豆のおかゆを選びながらいました。「おかゆの中にミルクを入れたの。栄養もあるし、おいしいわ。わたしはうれしさをあまり涙が出ました。異郷の地で、家族のように接してくれる人がいる……。「王姐、有難うございます。これに対して王姐は「何いってるの。家族みたいなものじゃない」といいました。あの日の緑豆は本当に温かかったです。

「素晴らしい家族。わたしはいつもあなたといっしょです」。「わたしたちはみんな家族。わたしは合璧を心から愛しています」。

### 濱森公園の見学

上海合璧 製造課文書員 劉佳琴

今回、T3071ラインの作業員が優秀作業員となり濱森公園の見学ができたことを感謝します。T3071ラインは彭顧問と工場長の指導の下、一気努力して、2ヶ月内に1人1枚のシール貼りを2枚に、人工絶縁を半自動絶縁に改善した結果、最終的に作業に必要な時間が72.5S/PCSから52S/PCSに減少し、生産効率を30%引き上げることができました。この途中みんなの手はマメが潰れ、タコができ、ネジを締め続けた腕は痛くて上がらなくなりました。生産技術の同僚も休むことなく頑張りました。こうやってわたしたちはついにやり遂げたのです。そしてこの苦しい状況を克服したことで、わたしたちは董事長といっしょに濱森公園を見学するというご褒美を与えられました。さらに今回の見学で、わたしたちは董事長の厳しい態度、豊富な生活経験、幅広い知識、ユーモアたっぷりの言葉などに接することができました。

濱森公園は全部で約3時間のコースです。ここに行くのに董事長は常にわたしたちの前を煽突と歩きました。時には立ち止まってわたしたちが来るのを待ちながら、「みんな頑張れ！」と激励の声をかけてくれました。そんな董事長を見て、ある同僚は「爺爺（董事長の愛称）はすごいな。ぼくら若いより歩くのが速い。もう歩けないよ」といいました。それを聞いてわたしは思い出しました。「そういえば、董事長は毎朝4時に起きて運動していたんだ。だから、こんなに体力もある。ぼくら若い者も鍛えなきゃならないんだ」。

そして今回の見学で「同心、同歩、同調（同じ心と同じリズムでともに歩む）」と「関心、関懐、関照（気配りと思いやりで接する）」の本当の意味を実感することができました。

大きな木の下で董事長はハーモニカを取り出し、わたしたちはそれに合わせて社歌を歌いました。音がずれたときは、みんなの音が合うまで董事長が細かく指導しました。そして見事な「同心、同歩、同調」ができたとき、素晴らしい現地に達するのを感じました。風が吹き、緑の草花が身近に感じられ、小鳥が楽しそうに鳴き……。公園全体の生命と合璧の社歌の音符が一体となるというか、人と自然が融合する感じを実感しました。

帰りに麵を食べました。その店で、董事長は「皿や箸はきちんと揃える」、「ゴミは右の小皿のわきに置く」、「ナプキンは1人1枚」などわたしたちに指示を出して、それを確認したり注意したりしました。ほかにお客さんがゴミをどこにも捨てるのを見ていた店の人たちはわたしたちを見てとても感心した様子でした。董事長は以前「ゴミはきちんと捨てないと見苦しい」といっていましたが、ここにも董事長の厳しくまじめな性格が表れていたように思います。

今回の濱森公園の見学でわたしたちは多くのことを体験し、学びました。これらを仕事や生活に活かして、みんなとともに楽しくやっていきたいと思っています。

T3071ラインの作業員一同

台壁は我等温モリの家；我は台壁を愛し、台壁は我を愛する；關心関懐關照 同心同歩同調！